

第1回 栄養研究部研修会報告

令和4年6月1日（水）
時間 15:00～16:30
会場 浜松市教育会館

- (1) 開会
- (2) 顧問校長あいさつ 浜松市立大平台小学校 和田 恵子先生
- (3) 食に関する指導について情報交換

「コロナ禍における給食時間の指導」「各教科における授業の指導研究」「ICTを活用した食に関する指導」の3点について、小グループで情報交換を行った。

「コロナ禍における給食時間の指導」では、従来の教室に入って指導する形が難しい中、給食時間の放送の充実や、掲示板やパワーポイントの活用、クイズに挙手で参加してもらう、プレートを首から下げて指導するなど、各学校で工夫して指導を行っていた。



「各教科における授業の指導研究」では、家庭科の調理実習や、保健体育科の食生活に関する内容、学級活動での朝食指導を始め、国語、社会、理科など、様々な教科の内容と関連付けて食指導を行っていた。

「ICTを活用した食に関する指導」では、パワーポイントを活用した指導や、ミライシードのオクリンクやジャムボードの活用、ビデオエディターでの動画作成など、タブレットを活用した指導を行う学校が増えてきた。



しかし、栄養教職員が自由に使うことができるタブレット端末がない、給食センターではインターネット環境が充実していないなど、ICTを活用する上で見えてきた課題もあった。

- (4) 給食管理について情報交換

献立作成グループごとに分かれ、「献立作成」「給食費の管理」について情報交換を行った。今年度から本格的に始まった公会計化と献立作成・物資選定方法の変更、そしてコロナ禍やウクライナ情勢による給食食材費の価格高騰などにより、どのグループも献立作成に苦慮している様子が見られた。

また、献立作成グループ内の人数や学校規模に差があり、以前より仕事量が増え、献立作成に影響が出ている、グループ内の収支報告がないため見通しを立てることが難しいなど、実際に運用をしてみても分かった課題も多く出てきた。

その中でも、献立作成を円滑に進めるために、グループ内の役割分担を明確にする、マニュアルを作成する、オリジナルのフォーマットで収支を把握する等、グループごとに工夫していた。

